

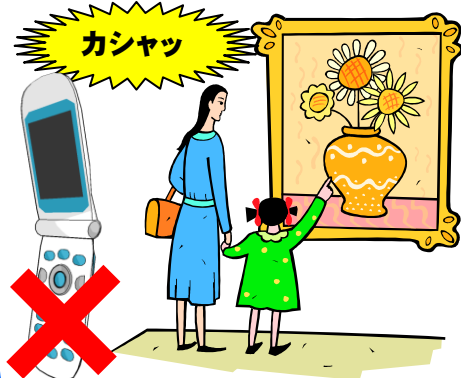
カメラ付き携帯電話の撮影マナー

勝手に撮影してはいけないもの！肖像権や著作権！



多くの場合、携帯電話にはカメラ機能が付いています。携帯電話に付いているカメラはとても便利で、どこでも気軽に写真を撮ることができます。ところが、カメラ付き携帯電話の普及に伴い、新たな問題が起こっています。それは、[著作権](#)や[肖像権](#)等の問題です。カメラ機能は、使用方法によっては問題になることがあるので、注意しましょう。

絵画や写真等の芸術作品を、勝手に撮影してはいけません！



店内の様子や商品とその内容を、勝手に撮影してはいけません！



人の顔や姿、水着の女性を、勝手に撮影してはいけません！



ポイント

1 美術館に展示された芸術作品を勝手に撮影

美術館等、静かに鑑賞する場所では、携帯電話の電源を切るか、マナーモードのするのがマナーです。また、絵画や写真等の芸術作品は、[著作権](#)法で守られており、禁止されている場所では勝手に撮影してはいけません。

2 店内や商品の内容等を勝手に撮影

本の記事等には、作家や出版社の著作権があるため、基本的に撮影できません。特に、買っていない本や雑誌のほしいページだけを撮影する行為は「[デジタル万引き](#)」と呼ばれる重大なマナー違反です。店内や商品も勝手に撮影してはいけません。また、他人の家の中を勝手に撮影するとプライバシー侵害にあたります。

3 人の顔や姿を勝手に撮影

人の顔や姿を撮る時は、相手の許可を得て撮るのがマナーです。許可なしに撮影したり、撮影した写真を断りなくブログ等で公開したりすると、プライバシーや[肖像権](#)の侵害にあたります。また、有名人の肖像には営利上の価値があるため財産権として保護されており、勝手に利用することはできません。現在では顧客吸引力をもつ有名人の肖像や名前を権利として保護する考え方が定着しており、この権利をパブリシティ権と呼んでいます。

4 わいせつな目的で撮影

水着の女性を盗撮するなどの行為は、痴漢同様、[迷惑行為防止条例違反](#)に該当します。

カメラ付き携帯電話の撮影マナー

<用語解説>

● 著作権

文学・音楽・美術等の分野で、思想や感情を表現した創作物を「著作物」といいます。たとえば、小説・音楽・絵画・映画・写真・Web ページ等は著作物です。これらの著作物を創作した人（著作者）の権利を守り、文化の発展に寄与するために作者に与えられる権利が著作権です。他人が著作権をもっている作品を複製する場合は、権利をもっている人（著作権者）の許可を得なければなりません。カメラで写真撮影することも同様です。ただし、私的使用のための複製については、著作権法第 30 条で、個人的に又は家庭内その他これに準ずる限られた範囲内において使用する場合、権利者の承諾を得なくても複製を行うことができると定められています。また、授業の過程における利用については、著作権法第 35 条で著作者の許諾なく複製できるケースが定められています。

● 肖像権

民法第 709 条では、「故意又は過失によって他人の権利又は法律上保護される利益を害した者は、これによって生じた損害を賠償する責任を負う」という条文があり、不法行為による損害賠償について定めています。プライバシーは「法律上保護される利益」にあたり、肖像も同じように保護されるべきであると考えられています。

つまり、人には他人から無断で写真を撮られたり、撮られた写真が無断で公表されたり利用されたりすることがないように主張できる権利があり、これを「肖像権」と呼んでいます。法律によって、明文化されているわけではありませんが、判例等によってプライバシー権の一部として認められています。

① ・人がみだりに自分の肖像を写真に撮られたり、描かれたりしない権利（無断撮影の禁止）

② ・写されたり、描かれたりした自分の肖像を勝手に公表されない権利（無断公表の禁止）

● デジタル万引き

カメラ付き携帯電話を使って書店に並べられた本や雑誌のほしいページだけを撮影し、出版物そのものは購入しない、いわば情報を盗む行為。本人は軽い気持ちでも、作家や出版社、書店に対する重大なマナー違反であり、著作権を侵害するおそれもあります。

● 迷惑行為防止条例

迷惑行為防止条例とは、各都道府県が、公共の場所又は公共の乗物において、人に著しく迷惑を及ぼすような方法で行われる行為を防止し、日常生活の平穏の保持に寄与する目的で定められるものです。山口県では、盗撮を規制する目的から「他人の身体又は下着（これらのうち現に衣服等で覆われている部分に限る。）を撮影したり、録画したりする目的で、撮影機器を他人のスカートの下に差し出す行為その他の周囲の状況からみて著しく異常な行為の禁止」が定められています。この条例に違反した者には、懲役や罰金が科せられます。各都道府県によって、規制対象となる行為や違反者に対する罰則等、細かい内容は異なりますが、刑法に載っていないくても条例違反をすれば逮捕されることになります。

<事例>

● 事例 1 女子高生を盗撮 平成 19 年 11 月 30 日

女子高生のスカート内を携帯電話で盗撮したとして、埼玉県警は 30 日、県迷惑行為防止条例違反（盗撮）の疑いで、容疑者を逮捕した。容疑者は 30 日午前 7 時 5 分ごろ、JR 大宮駅の東口中央エスカレーターで、前方にいた私立高 3 年の女子生徒のスカート内にカメラ付き携帯電話を差し入れて盗撮した疑い。

<参照>

- KDDI 株式会社「ケータイあんしんBOOK」http://www.au.kddi.com/notice/manner_book/index.html
- モバイル社会研究所「みんなのケータイ」<http://www.moba-ken.jp/activity/report/index.html>
- ソフトバンクモバイル株式会社「ケータイマナー&トラブル対策 BOOK」
<http://broadband.mb.softbank.jp/mb/support/safety/pdf/mannerbook0707.pdf>
- 文化庁「子ども文化教室」<http://www.bunka.go.jp/kids/index.html>